

令和8年（2026年）度施策評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価者	教育文化財部長 保住 俊博
評価者	学びみらい部長 河合 克也

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野 4-(3) 学校教育	施策の方針	4-(3)-①教育内容・環境の充実
目標とするまちの姿	学校・家庭・地域の連携により、安全で安心な学校づくりが進められ、小・中学校に通う児童生徒のだれもが、健やかで楽しく充実した学校生活を過ごしています。学校では、子どもたちの学ぶ意欲を高めながら、子どもたちへのきめ細かい指導により、生きる力を育てています。		
主な取組	<p>(1) 社会に開かれた教育課程の実現 児童生徒が、健やかで楽しく、充実した学校生活を送るため、学校・家庭・地域がさらなる連携を図り、児童生徒への安全教育の実施と安心・安全な環境づくりを推進します。</p> <p>(2) 豊かな学びの推進 子どもたちの学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につけるため、学習環境の充実やICT教育、地域教材を生かした郷土学習、さらに国際理解教育や創造的思考力の育成を積極的に行うことにより、将来に夢や希望が持てる豊かな学びを推進します。</p> <p>(3) 児童・生徒指導の充実 学校・教育委員会・家庭・地域・市の連携体制を築くことにより、きめ細かな児童・生徒指導を進め、いじめ問題への未然防止・早期対応、不登校児童生徒への教育的支援に努めます。</p> <p>(4) インクルーシブ教育の充実 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、個に応じた教育や特別支援教育を推進します。また、すべての子どもたちが多様性を認め合い、地域で共に学ぶことのできる環境づくりを進めていきます。</p>		

1. 前年度（評価対象年度）の当該施策の目標

教育文化財部

・鎌倉市立由比ガ浜中学校やかまくらULTLAプログラムを運営するとともに、令和7年度(2025年度)の校内フリースペースの整備(小学校4校・中学校4校)を完了する。また、これらの事業の実施にあたっては、対象となる児童生徒及び保護者への周知徹底を図る。

学びみらい部

・鎌倉市立由比ガ浜中学校やかまくらULTLAプログラムを運営するとともに、令和7年度(2025年度)の校内フリースペースの整備(小学校4校・中学校4校)を完了する。また、これらの事業の実施にあたっては、対象となる児童生徒及び保護者への周知徹底を図る。

・中学校3校において、学習者中心の学びに対応した新たな学習空間の整備を完了する。

・有機野菜等を使用したオーガニック給食及び特別栽培米を使用した給食を、小中学校全校で実施する。

・令和7年度は鎌倉版コミュニティ・スクールを残りの第一中学校区及び御成中学校区に設置するとともに運営していく。また、第一中学校区、御成中学校区の設置に伴い、第一中学校、第一小学校、御成中学校、御成小学校、稲村ヶ崎小学校の5校に地域活動協働推進員の配置を進める。

・学校が抱えている課題、教職員にとって必要不可欠な授業づくりについて、学校・教職員が1年間をとおして研究・研修ができるような支援をする。また、相談者にとって安心して教育相談が受けられるように相談体制の整備を行う。

・児童支援にあたる教諭を専任化するため、後補充の市費負担非常勤講師を配置する。

・学校が抱えている課題、教職員にとって必要不可欠な授業づくりについて、学校・教職員が1年間をとおして研究・研修ができるような支援をする。また、相談者にとって安心して教育相談が受けられるように相談体制の整備を行う。

2. 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	1,819,882	1,489,228	2,056,840	2,092,405	2,176,291	2,267,576
人件費	1,051,237	1,075,260	1,062,687	1,139,945	1,211,118	1,161,006
総事業費	2,871,119	2,564,488	3,119,527	3,232,350	3,387,409	3,428,582

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費 (千円)	人件費 (千円)	総事業費 (千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	教-01	教育委員会運営事業		5,903	14,909	20,812	現状維持	A	現状維持
	教-02	事務局運営事業		8,427	43,348	51,775	現状維持	A	現状維持
	教-03	教育指導運営事業		1,472	9,111	10,583	拡充	A	拡充
	教-04	小学校運営事業		114,173	383,111	497,284	現状維持	A	現状維持
	教-05	小学校特別支援教育事業		6,105	2,623	8,728	現状維持	A	現状維持
	教-06	中学校運営事業		64,716	113,625	178,341	現状維持	A	現状維持
	教-07	中学校特別支援教育事業		4,648	2,623	7,271	現状維持	A	現状維持
	学み-01	事務局運営事業		1,318	9,111	10,429	現状維持	A	現状維持
	学み-02	教育支援事業		38,868	18,223	57,091	拡充	A	拡充
	学み-03	教職員運営事業		9,858	26,783	36,641	現状維持	A	現状維持
	学み-04	就学支援事業		33,895	7,731	41,626	改善・変更	B	改善・変更
	学み-05	学校保健事務		58,171	8,835	67,006	現状維持	A	現状維持
	学み-06	就学事務		278	7,869	8,147	現状維持	A	現状維持
	学み-07	学校保険事務		11,069	2,071	13,140	現状維持	A	現状維持
	学み-08	小学校給食事務		902,815	37,964	940,779	現状維持	A	現状維持
	学み-09	小学校教育振興助成事業		66,690	8,007	74,697	現状維持	A	現状維持
	学み-10	中学校給食事務		311,165	34,651	345,816	現状維持	A	現状維持
	学み-11	中学校教育振興助成事業		50,517	4,694	55,211	現状維持	A	現状維持
	学み-12	教育指導運営事業		2,539	10,355	12,894	現状維持	A	現状維持
重	学み-13	ICT教育環境整備事業		31,150	16,566	47,716	現状維持	B	現状維持
	学み-14	教育支援事業		12,195	127,048	139,243	現状維持	B	現状維持
重	学み-15	コミュニティスクール整備事業		2,063	5,798	7,861	現状維持	B	現状維持
	学み-16	特別支援教育事業		7,388	159,914	167,302	現状維持	B	現状維持
	学み-17	小学校研究・研修事業		358	1,657	2,015	現状維持	B	現状維持
	学み-18	小学校特別支援教育事業		394	2,485	2,879	現状維持	B	現状維持
	学み-19	中学校研究・研修事業		180	1,657	1,837	現状維持	B	現状維持
	学み-20	中学校特別支援教育事業		500	2,485	2,985	現状維持	B	現状維持
	学み-21	情報教育事業		43,821	8,974	52,795	現状維持	B	現状維持

学み-22	ICT教育環境整備事業		452,101	4,418	456,519	現状維持	B	現状維持
学み-23	調査研究研修事業		1,884	24,022	25,906	現状維持	B	現状維持
学み-24	教育情報事業		7,794	4,280	12,074	現状維持	B	現状維持
学み-25	相談室事業		9,926	51,088	61,014	拡充	B	拡充
学み-26	小学校運営事業		2,519	2,485	5,004	現状維持	A	現状維持
学み-27	中学校運営事業		2,676	2,485	5,161	現状維持	A	現状維持

4. 評価対象年度の主な実施内容

教育文化財部

・由比ガ浜中学校だけでなく、小・中学校全校が滞りなく学校運営できるよう必要な物品を調達した。
・令和7年4月に開設した山崎小学校の特別支援学級だけでなく、設置されている特別支援学級が滞りなく学校運営ができるよう必要な物品を調達した。

※実施できなかった事業とその理由

学びみらい部

・教育大綱に示した目指す姿・行動指針を実現していくための具体的な教育政策を整理し、全体を横断的にマネジメントするため、令和7年12月に「教育振興基本計画」を新たに策定した。
・寄附者や協力企業・団体等の方々に、教育大綱に込めた思いや鎌倉の様々な取組を伝えるとともに、探究的な学びなどの体験、参加者全員による対話を通して、鎌倉の教育の未来を共に考えるイベント「炭火ファンミーティング」を12月に実施した。
・鎌倉スクールコラボファンド活用基金の持続可能な資金調達のため、市民等が読み終わり不要となった本、CD、DVD等をリサイクル業者が回収・査定し、その査定金額が基金に寄附される仕組み「キモチと。」プログラムを令和7年6月に導入した。
・鎌倉スクールコラボファンド活用基金を活用し、学校が主体となりながら企業やNPO等と協働して、探究学習や課題解決型学習など21プロジェクトを実施した。
・中学校3校において、学習者中心の学びに対応した新たな学習空間の整備を行った。
・有機野菜等を使用したオーガニック給食及び特別栽培米を使用した給食を、小中学校全校で実施した。
・第一中学校区及び御成中学校区に鎌倉版コミュニティ・スクールを設置し、全中学校区において鎌倉版コミュニティ・スクールの運営を開始した。これに伴い、第一中学校、第一小学校、御成中学校、御成小学校及び稲村ヶ崎小学校に地域学校協働活動推進員を配置し、全校配置を完了した。
・児童支援の専任化を目的として、全ての小学校に後補充の市費負担非常勤講師を配置した。
・調査研究研修事業では、教育課題研究会、幼児教育研究会、教育課程研修会を中心に研究会事業を実施した。研修事業では、学校支援研修会及び企画研修会を開催し、教職員の資質向上に取り組んだ。教育情報事業では、「所報かまくら教育」及び「教育センターだより」を発刊した。また、新小学3年生向け副読本「かまくら」を印刷・配布した。さらに、教育センターサイトの充実を図り、講師から許諾を得た研修会に関しては、資料の公開、研修の様子動画を公開した。

※実施できなかった事業とその理由

5. 成果指標

成果指標①		将来に夢や目標を持てる児童生徒の割合					出典	全国・学力学習状況調査 児童生徒質問紙		
	平成31年 4月18日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
初期値	72.8	目標値	74.0	76.0	78.0	80.0	81.0	82.0	%	
		実績値	未実施	69.9	73.4	71.8	73.5	76.4		
		達成率	-	91.0%	94.1%	89.8%	90.7%	93.2%	%	

成果指標②		小・中学校における特別支援学級の設置率					出典	所管課調べ(学校数及び特別支援学級設置校数から計算)		
初期値	平成31年 4月1日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	76.0	目標値	80.0	84.0	88.0	92.0	96.0	100.0	%	
		実績値	80.0	84.0	88.0	92.0	96.0	100.0		
		達成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

成果指標③		「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか」において、ほぼ毎日と回答した児童・生徒の割合					出典	全国・学力学習状況調査 児童生徒質問紙		
初期値	平成31年 4月5日	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	単位	備考
	4.3	目標値	－	10.0	20.0	40.0	60.0	80.0	%	
		実績値	未実施	8.4	26.3	31.1	32.3	53.2		
		達成率	－	80.0%	131.5%	77.8%	53.8%	66.5%	66.5%	

6. 「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

教育文化財部

・成果指標②「小・中学校における特別支援学級の設置率」は、予定どおり山崎小学校に特別支援学級を開設したため、目標値を達成し、適切な運営をすることができた。

学びみらい部

・成果指標①「将来に夢や目標を持てる児童生徒の割合」は、目標を達成することができなかったものの昨年度から実績値を上昇させることができた。将来の夢や目標を持つことは、児童生徒が自らの可能性を認識し、前向きに取り組む態度を育てるだけでなく、学習活動においても関心をもって主体的に学び、理解を深める助けとなることが期待できるため、実社会と自らの学びや活動が連続している実感を得られるような教育活動が展開されるよう、引き続き学校を支援していく必要がある。

・成果指標②「小・中学校における特別支援学級の設置率」は、予定どおり山崎小学校に特別支援学級を開設したため、目標値を達成した。

・成果指標③「『授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか』において、ほぼ毎日と回答した児童・生徒の割合」については、20ポイント以上の大幅に上昇した一方で、小学校におけるICTの活用率については課題が残っており、今後とも積極的な活用を促していく必要がある。

7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

教育文化財部

令和7年4月に開校した学びの多様化学校(不登校特例校)である由比ガ浜中学校や山崎小学校の特別支援学級だけでなく、全ての小・中学校を滞りなく運営することで、安全で安心な学校づくりが進められ、小・中学校に通う児童生徒の誰もが、健やかに楽しく充実した学校生活を過ごすことができる学習環境の整備に貢献することができた。

学びみらい部

・児童生徒へのきめ細かな支援を実現するため、学級介助員や児童支援専任後補充非常勤講師の配置等を実施することにより、人的支援や校内支援体制を充実させることができた。

・鎌倉版コミュニティ・スクールの全中学校区への設置を完了したことにより、目標とするまちの姿に掲げる「学校・家庭・地域の連携」の実現に寄与していくと考えられることから、貢献度が高い事業であると考えられる。

8. 今後の方向性

教育文化財部

鎌倉ミライ共創プラン2030 該当施策	2-4 教育
学習者中心の学びを通じて“炭火”のごとく誰もが学びの火を灯し続け、生涯にわたり心豊かに生きているまちとなるよう学習環境の整備をしていく。	

学びみらい部

鎌倉ミライ共創プラン2030 該当施策	2-4 教育
<ul style="list-style-type: none"> ・教育振興基本計画に示す施策の進捗管理、評価を行う。 ・市立小中学校において、学習者中心の学びに対応した学習空間を計画的に整備する。 ・引き続き有機野菜等を使用したオーガニック給食及び特別栽培米を使用した給食を、小中学校全校で実施する。 ・教育大綱に掲げる「学習者中心の学び」の実現に向けて、市立小中学校における教育活動の充実を支援する。 ・児童生徒の個に応じた教育内容・指導・支援の充実や、インクルーシブ教育の推進に取り組むとともに、校内支援体制の強化を通じて子どもたちが安心して過ごすことができる環境づくりを進める。 ・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を通じて、学校と地域社会の連携を深めるとともに、子どもたちが社会との繋がりを感じ、将来に夢や希望を持ちながら学びを深めることができるよう、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。 ・由比ガ浜中学校や校内フリースペースの円滑な運営サポートを行っていく。 ・調査研究研修事業及び教育情報事業を継続的に実施し、教職員の資質向上及び教育課題への対応を図る。あわせて、教育センター作成のサイトに学校支援研修会及び企画研修会の内容を掲載し、教育情報の発信を行う。さらに、小学校社会科副読本の発刊並びに中学校社会科副読本「私たちの鎌倉」及び理科副読本「鎌倉の自然」のタブレット端末用アプリへの搭載を継続し、その活用の周知を図ることにより、学校教育の充実に努める。加えて、「所報かまくら教育」については、教職員以外の市民も閲覧しやすい紙面構成とし、市内施設へ配付する。「センターだより」については、研修会情報を掲載し、教育センター事業の周知を図る。 ・様々な課題を抱える児童生徒やその世帯からの相談を関係機関と連携しながら適切な教育相談を行っていく。 	